

独立行政法人の栽培実験に係る情報提供等に係る取組みの事例

(北海道農業研究センター)

# 北海道農業研究センターの組換えイネ研究について

## 1 研究の対象

生産性を飛躍的に高めることを目的に高い光合成能力を有するトウモロコシC4型遺伝子を導入したイネ

## 2 研究の内容

当該遺伝子組換えイネ2系統と、導入前の原品種である「キタアケ」(北海道で育成)を北海道の気象条件下で比較栽培し、遺伝子導入系統の出穂期、収量特性、一般形態等を調査

## 3 研究の実施場所

独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構  
北海道農業研究センター

## 4 説明の状況

参考参照

5月	9 (金)	第1回説明会についての プレスリリース 案内状の配布(区役所、町内会(15日)等) ホームページへの掲載(12日)
	10 (土)	
	11 (日)	
	12 (月)	
	13 (火)	
	14 (水)	
	15 (木)	
	16 (金)	
	17 (土)	
	18 (日)	
	19 (月)	
	20 (火)	第1回一般説明会(63名)
	21 (水)	
	22 (木)	道、ホクレン、北海道開発局への説明
	23 (金)	第2回説明会についての プレスリリース 案内状の配布(区役所、町内会等) ホームページへの掲載
	24 (土)	
	25 (日)	
	26 (月)	
	27 (火)	
	28 (水)	道、ホクレン、北農中央会への説明
	29 (木)	第2回一般説明会(70名)
	30 (金)	田植え(一般公開)
	31 (土)	
6月	1 (日)	
	2 (月)	
	3 (火)	
	4 (水)	
	5 (木)	ほ場見学開始

---

28 (土)	北海道農業研究センター一般公開(試験ほ場への見学者1,410名)
--------	----------------------------------

---

7月	11 (金)	監視カメラで撮影した試験水田の組換えイネの生育状況をセンターのホームページ上で公開開始
----	--------	---

---

8月	5 (火)	道議会議員等のほ場視察
	6 (水)	
	7 (木)	出穂開始

---

9月	5 (金)	試験栽培中止署名簿の大臣提出
----	-------	----------------

---

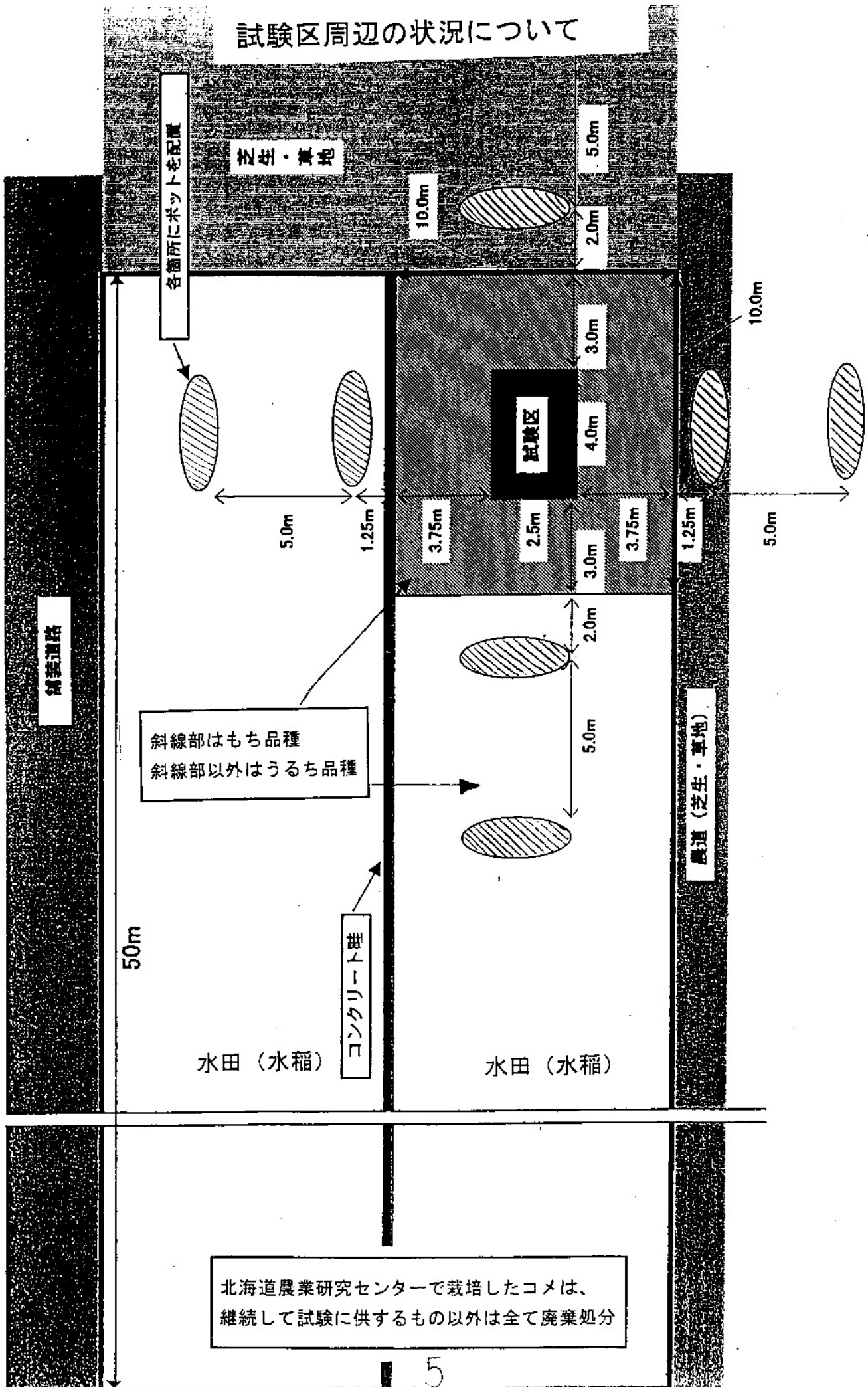
10月	16 (木)	収穫
-----	--------	----

## 組換えイネ試験の内容

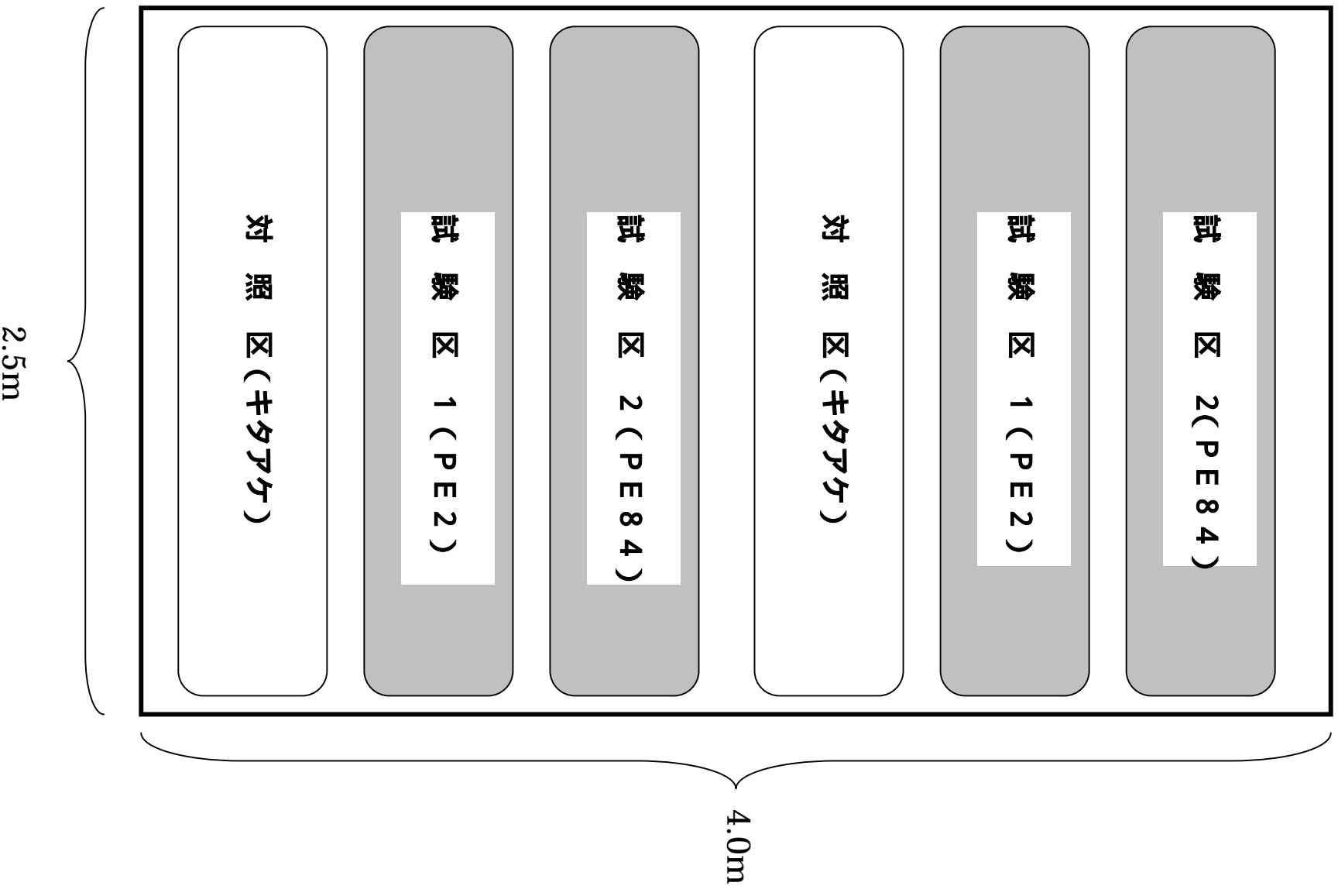




# 試験区周辺の状況について



# 試験区の設定について



平成15年5月9日

## 遺伝子組換えイネの一般圃場栽培試験に関する 一般説明会のご案内

北海道農業研究センター

北海道農業研究センターでは、遺伝子組換えイネの一般圃場における栽培試験を計画しております。実施に先立ち、下記のとおり、説明会を開催いたしますので、多数ご参加下さいますようお願いいたします。

### 記

日 時 : 平成15年5月20日(火) 午後3:00 ~ 4:30

場 所 : 北海道農業研究センター・本館3階・大会議室  
(札幌市 豊平区 羊ヶ丘1番地)

内 容 : 1. 組換えイネのこれまでの試験結果について  
2. 今回の利用計画(一般圃場栽培試験)について

申込み・問合せ : 参加を希望される方は、5月16日(金)までに  
下記までご連絡下さい。

北海道農業研究センター 企画調整部  
連絡調整室 企画班(担当:吉川・山口)  
きくかわ

電 話 : 011-857-9490(直通)

Eメール : kikkawa@affrc.go.jp



遺伝子組み換え

イネでも試験栽培

北農研 センター 今秋、重量比較の分析

独立行政法人・農業技術研究機構北海道農業研究センターは、札幌市豊平区緑ヶ丘の同センター農場で、遺伝子組み換えイネの栽培試験に着手する。収量増や目的に、独立行政法人・農業技術研究機構(米)が属する同センターの「アロモロシ」の遺伝子を導入したイネを用い、道内で、遺伝子組み換えイネを栽培する試験地を定めるのは初めて。

アロモロシは先代版の能力が高く、その遺伝子を組み込んだイネは稲の生育の収量増やの可能性がある。同センターは、今年も試験栽培する。このイネは農林水産大臣の承認を四月二十八日に得た。

イネの原産地は「キタアキ」で、冷涼地が栽培に適しているため道内が試験地として選ばれた。一畝は約一ヘクタールの試験区画で、八月下旬の播種区画の下、イネの播種区画の遺伝子組み換えイネを同様に播種し、重量比較などの分析をする。食品や飼料としての安全性を確認する。道内産イネを播種する。道内産イネを播種する。

ことほげ、米年度以降の取り扱いは未定。遺伝子組み換え作物については完全生産に対する

不安が示しよるが、道内では昨年、北農研で遺伝子組み換え大豆の栽培試験が行われ、論議が起った。今回の栽培試験は、同センターは三月下旬から、豊平区緑ヶ丘の施設内で一般公開を始める。参加などに際する問い合わせは同センター連絡調整室011-8507-0400へ。

平成15年5月23日

トウモロコシC4型 PEPC (ホスホエノールピルビン酸カルボキシラーゼ)  
遺伝子を導入した組換えイネの北海道農業研究センター場内試験圃場での  
栽培試験及びこれに関する第2回住民説明会についての記者発表

独立行政法人 農業技術研究機構  
北海道農業研究センター

1. 日 時：平成15年5月23日（金）14時～

2. 場 所：北海道農業研究センター 新会議室（札幌市豊平区羊ヶ丘1番地）

3. 発表内容

1) 農業生物資源研究所が育成し、平成15年4月28日に開放系利用（一般圃場栽培を意味する）について農林水産大臣の確認が得られた組換えイネ系統の栽培試験を北海道農業研究センター場内の試験圃場で実施します。本試験は農業生物資源研究所と北海道農業研究センターの共同試験です。

2) 試験の目的

高い光合成能力を示すC4光合成の主要酵素のひとつにPEPCがあります。この酵素を作るトウモロコシC4型PEPC遺伝子を導入した組換えイネ2系統と、導入前の原品種である「キタアケ（北海道で育成）」とを北海道の気象条件下で比較栽培し、遺伝子導入系統の出穂期、収量特性、一般形態等を調査します。

3) 実施方針

本試験は以下の方針で実施します。

①栽培試験は外部に対し、完全に公開する形で実施します。関心のある方については試験圃場での立ち会いを可能にすると共に、試験・分析等への有志団体の参加も歓迎します。

②当該組換えイネの花粉の飛散距離や花粉の寿命、交雑性などのこれまでの調査で、50cm以上離れたイネには交雑個体は見出されていません。しかし、本試験栽培においても花粉飛散を検証する目的で、当初予定に追加し、更に離れた地点で非組換えイネを栽培し、交雑がないことを確認することとします。当該組換えイネとその周辺に植えた非組換えイネとの間の雑種子の形成について、遺伝子レベルや形態的な特性によってチェックを実施します。

4) 第2回住民説明会の実施

上記の実施方針、試験内容等について、5月20日に続き第2回目の説明会を5月29日（木）14時から北海道農業研究センター（札幌市豊平区羊ヶ丘1番地）で開催します。参加を希望される方は、5月28日（水）までに北海道農業研究センター企画調整部連絡調整室企画班（担当：山口、電話011-857-9416）にご連絡下さい。

なお、住民説明会の問い合わせについては、連絡調整室企画班（担当：吉川、電話011-857-9490）にお願いします。

独立行政法人 農業技術研究機構  
北海道農業研究センター  
企画調整部情報資料課 山口 彰  
TEL 011-857-9260

子伝イネ 遺伝子交換 農研 北組

# きょうつから栽培試験

## 住民ら不安消えず

近い水田までは直線距離で4キロあり、一般農家へ

の影響はなっていない。これに対し、生産者からは「消費者に今までのようなものは、組み換え作物とどうも農薬も使っていないもの」「消費者からは「安全性が確認されていないものを一般の水田で栽培するのは理解できない」と不安の声が相次いだ。



収量増加を目指す道内初の遺伝子組み換えイネの栽培試験が30日、札幌市豊平区の独立行政法人「北海道農業研究センター」で始まる。センターは環境への影響に不安を持つ生産者の声に応え、当初予定になかった試験内容の全面公開の花粉飛散の検証の充実——を打ち出した。しかし、消費者団体からは試験中止を求めており、主張の隔たりは大きい。【筑井直樹】

「関心がある人の試験立ち会いや、結果分析への参加を求めたい」。センターが29日開いた2回

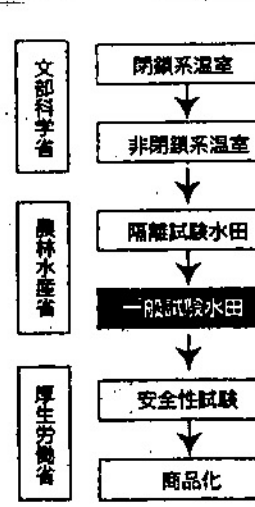
「隔離帯の周りに、新たに非組み換えイネの栽培ポットを複数設置。組み換えイネから花粉が飛散し、交雑していかないかどうかを遺伝子レベルで検証する。



道内初の栽培試験が行われる遺伝子組み換えイネと非組み換えイネの苗

試験に使うイネは、イネの品種「キタアケ」に、高い光合成能力を示すトウモロコシの遺伝子を導入し、形態や生産量を調べる。これまでは、茨城県内のフェンスで隔離された試験水田で環境への影響を調査。その結果、50%以上離れた別のイネが受粉した例は確認されなかった。センターから最も

遺伝子組み換えイネの安全性評価の流れ



組み換えイネをめぐって不安の声が再び「として、米パイオ企業との共同開発を完了した愛知産への審査申請を断念している。

イネの成長、HPで公開

道内初の遺伝子組み換えイネの試験栽培に取り組む北海道農業研究センター(札幌市豊平区)は、監視カメラが撮影したイネの成長の経過などを公開するホームページ(HP)を開設した。収穫後は、花粉の飛散など交配検証結果も公表する。

道農業研究センター  
遺伝子組み換え  
安全性を強調

「キタアケ」で比較

ホームページは試験の目的として「遺伝子の動きを明らかにするため、本来の生育環境の中で栽培する必要がある。周辺環境に悪影響を与える危険は無い」と強調。

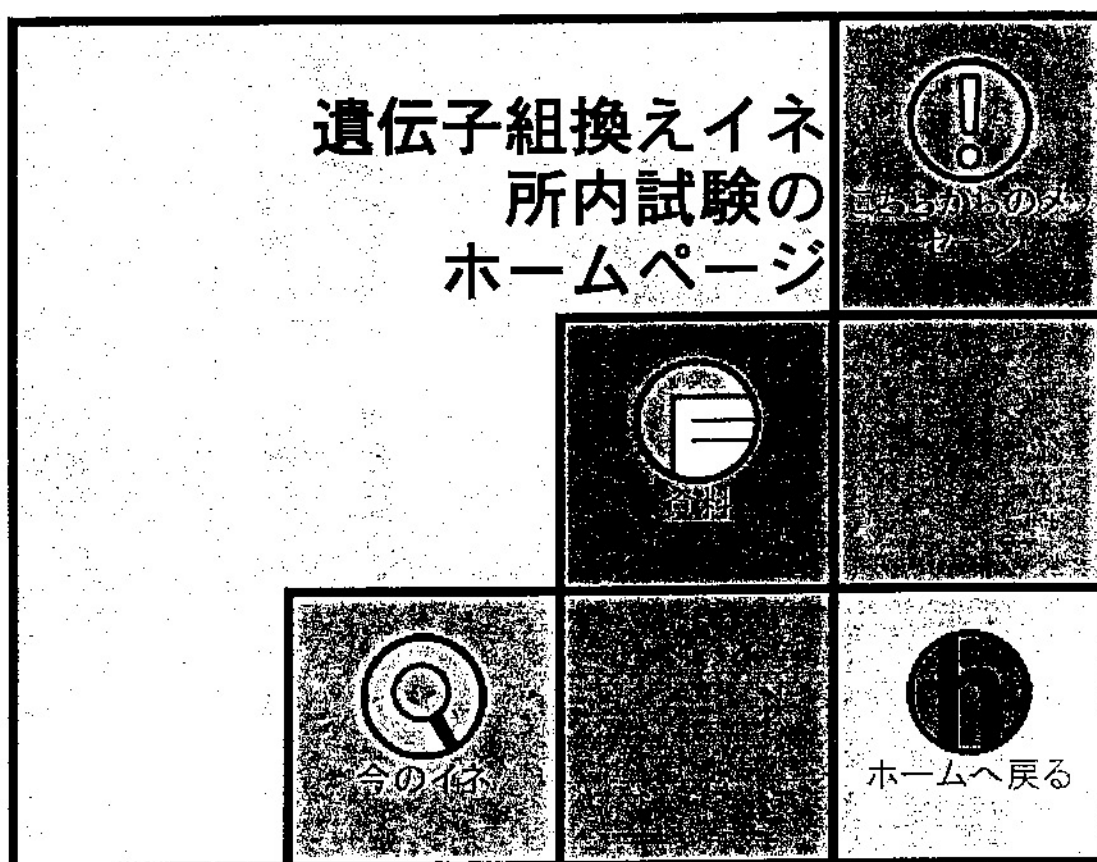
センター内の水田に設置したカメラが撮影した直近の画像を映し出しているほか、5月30日の田植えから10日ごとの成長の様子が確認できる。資料欄には、組み換えイネの開発や安全性試験の経過を掲載している。

イネは、道内で育成された「キタアケ」に光合成機能が優れたトウモロコシの遺伝子を導入。収量などを非組み換えのキタアケと比較する。

組み換えイネのホームページは同センターのアドレス (<http://cr.yo.naro.affrc.go.jp/>) から。

【筑井直樹】

# 遺伝子組換えイネ 所内試験のホームページ



このページは、平成15年度に(独)農業技術研究機構 北海道農業研究センターで行われている遺伝子組換えイネ栽培試験の内容、経過状況、成果を広く公開するために設けられました。

この試験は一般の方々に公開することを原則として行っています。見学、調査への立合いなどのご希望があれば北海道農業研究センターにお申込下さい。

## [こちらからのメッセージ]

### ■ 栽培目的および調査項目 ■

- 目的:** 組換えイネの特性調査であり、一般農家への普及を行うための栽培試験ではありません。
- 材料:** 供試系統は組換えイネ(PE2、PE84)及び非組換えイネ(品種:キタアケ)の合計3系統。各系統20株×2畦、2反復。PE2とPE84の2系統の組換えイネは、(独)農業生物資源研究所が、北海道で育成されたイネ品種「キタアケ」にトウモロコシ由来の遺伝子を導入したものです。
- 調査項目:** 一般形態(登熟期の稈長、穂長、穂数)、出穂期、収量特性(1穂あたりの粒数、1000粒重)。
- 試験地:** 北海道農業研究センター。これは、「キタアケ」が北海道で育成された品種であり、組換えイネと非組換えイネ「キタアケ」との特性を比較するには、育成地である北海道で栽培する必要があるからです。
- なお、この栽培試験は北海道農業研究センター内でのみ行い、所外で試験を行う計画はありません。
- 公開項目:** 試験圃場、成績取りまとめ後の試験調査結果、交雑検証結果

### ■ なぜ今回の組換えイネの試験を行う必要があるのですか？ ■

光合成は、太陽光のエネルギーを利用して大気中の二酸化炭素を炭水化物へと変換する反応です。これは食糧生産の基本反応であるとともに、私たちの呼吸に必要な酸素を植物が供給する重要な反応でもあります。

今回試験に用いている組換えイネには、多くの植物(C3植物)よりも効率よく光合成を行うトウモロコシ(C4植物)の光合成機能に関わる遺伝子の一つをイネに組み込んだものです(資料ページ参照)。

生物の身体やその機能が、莫大な数の遺伝子の協調の結果出来ていることは既に明らかです。従って、目的とする遺伝子が生物の中でどの様な働きをするかを明らかにするためには、どうしても本来の生育環境の中で栽培して確認する必要があります。

### ■ 周辺環境に対する安全性はどう考えているのですか？ ■

この組換えイネを栽培することによって、周辺環境に悪影響を与える危険の無いことは既に数度にわたる様々な安全性試験によって確認されています(資料ページ参照)。

しかし、それでも組換えイネの試験に不安を感じる市民の方がいらっしゃるのでは、以下の対応をしております。(栽培圃場周辺の様子ページ参照)

1. 風などの影響で試験区の周辺に花粉飛散の影響があるかどうかについて、念のため遺伝子レベルでのチェックを含め、点検します。

なお、組換えイネの花粉が、周辺農家圃場の一般栽培イネに到達して受精し、種子をつくる可能性はないと考えられます。その理由は、

1) イネはもともと自分の花粉で実をつける植物で、花粉を遠くに飛ばす能力はありません。この点では、この試験材料も普通のイネと変わっていないことは調査済みです。

2) 組換えイネから、所外の一番近い水田圃場までは4kmの距離があり、林・建物・丘などにより隔てられています。

3) イネの花粉の寿命が5～10分と短いためです。

2. 組換えイネ試験区の周辺圃場で栽培しているイネは流通させません。

---

#### ■ セキュリティは万全ですか？ ■

1. 試験区域を上部は防鳥網、側面は金網フェンスで囲い、野鳥による食害や部外者による持ち出し等を防ぎます。

2. 警備員の巡回、24時間体制での周辺画像記録監視により、警備体制には万全を期します。



ホーム

## [組換えイネに関する資料]

### ■ 今回植えられたイネはどんな特徴がありますか？ ■

今回試験している組換えイネは、光合成を効率良くすることが出来る、トウモロコシから取り出した炭酸ガス固定を触媒する酵素を作るPEPC(ホスホエノールピルビン酸カルボキシラーゼ)遺伝子を導入した2系統です。  
 図:イネへのC4光合成回路の付与((独)農業生物資源研究所ホームページから引用)

### ■ どの様にして作られましたか？ ■

平成8年10月	アグロバクテリウム法によりPEPC遺伝子の導入開始	(独)農業生物資源研究所
平成9年1月	導入遺伝子の確認、世代を進め、同年10月ホモ系統を選抜	(独)農業生物資源研究所
平成11年4月～平成12年10月	閉鎖系温室での安全性評価実験	(独)農業生物資源研究所
平成12年11月～平成13年9月	非閉鎖系温室での安全性評価実験	(独)農業生物資源研究所
平成14年6月～平成14年12月	模擬的環境利用(隔離圃場)での安全性評価実験	(独)農業環境技術研究所 (独)農業生物資源研究所
平成15年4月28日	開放系利用に農林水産大臣確認	

### ■ 今までどの様な安全性試験をしてきましたか？ ■

閉鎖系温室では一般形質及び生育特性、花粉の形状・稔性・寿命、近縁種との交雑可能性等、非閉鎖系温室では根からの根圏への分泌物、微生物相への影響等、隔離圃場(模擬的環境)では花粉の飛散性、低温耐性、栽培土壌の後作への影響等について安全性試験をしてきました。

それらは外部専門家を入れた文部科学省、農林水産省の組換え体利用専門委員会に報告され、安全性確認の指針に合致しているかどうかの厳重なチェックを受けて安全性が確認され、平成15年4月28日に農林水産大臣より開放系利用の確認が出されたものです。(我が国における組換え作物の安全性評価の流れ)



農林水産大臣 亀井善之殿  
独立行政法人農業技術研究機構理事長 三輪壽太郎殿  
北海道農業研究センター所長 桑原真人殿

## 一般圃場における遺伝子組み換えイネ試験栽培の 即刻中止を求める署名

私たちは、遺伝子組み換え技術が未だ確立された技術ではなく、生態系への安全性、食としての安全性、種子を開発した大企業による世界の食料・農業支配への懸念、などの点で、多くの問題をはらんでいると考えています。また、消費者の多くも組み換え作物に対して大きな不安を抱いていることは、世論に押されるかたちで食品への表示が強化されてきていることから明らかです。

今回、北海道農業研究センターが強行実施した、遺伝子組み換えイネの一般圃場での試験栽培については、環境への影響や、豊かな自然と安全という北海道農業のイメージが損なわれる恐れ（風評被害）があることなどが懸念されます。

そして何よりも、情報公開、市民参加が当然と考えられるようになってきた今日の行政のあり方にあつて、市民、地域住民に合意を得ようとせず、アリバイ工作とも思えるわずかな情報提供と一方的な説明のみで試験栽培を強行したことに対し、深い憤りを禁じ得ません。

以上のことから、

- (1) 今回強行実施された遺伝子組み換えイネの試験栽培を即刻中止し、
- (2) 十分な話し合いの結果として道民の合意が得られるまでは一般圃場での栽培試験を実施しないこと、を強く求めます。

北海道遺伝子組み換えイネいらないネットワーク

事務局：〒063-0829 札幌市西区発寒9条13丁目1-10 生活クラブ内 Tel011-665-1717

氏名	住所

(取り扱い団体名：北海道農民連盟)

独立行政法人の栽培実験に係る情報提供等に係る取組みの事例

( 近畿中国四国農業研究センター 四国研究センター )

# 近畿中国四国農業研究センター 四国研究センター の組換えイネ研究について

## 1 研究の対象

イネ縞葉枯ウイルス抵抗性イネ（キヌヒカリ）

## 2 研究内容

組換えイネを非組換えイネと比較するため、一般の試験ほ場で長期栽培し、基本的な生育特性について調査するとともに、生育・生息する植物、昆虫、土壌微生物等の生物相に及ぼす影響を長期間モニタリングし、環境への影響を検討する。

## 3 研究の実施場所

近畿中国四国農業研究センター 四国研究センター

## 4 説明の状況

平成13年 6月 5日 住民説明会  
6月21日 田植え実施

平成14年 特段の対応なし

平成15年 9月17日 コープ自然派オリーブから現地見学会要請  
9月25日 コープ自然派オリーブに対する現地見学会  
10月 1日 収穫  
10月 9日 コープ自然派オリーブの栽培中止の正式申し入れに対する説明会  
11月15日 生活協同組合コープ自然派オリーブ主催講演会・シンポジウムに技術安全課が出席し、研究の目的等を説明

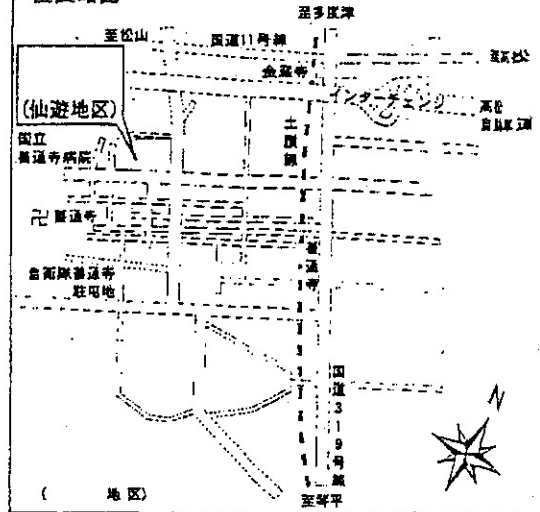
独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構  
 近畿中国四国農業研究センター四国研究センター  
 (善通寺市仙遊町)



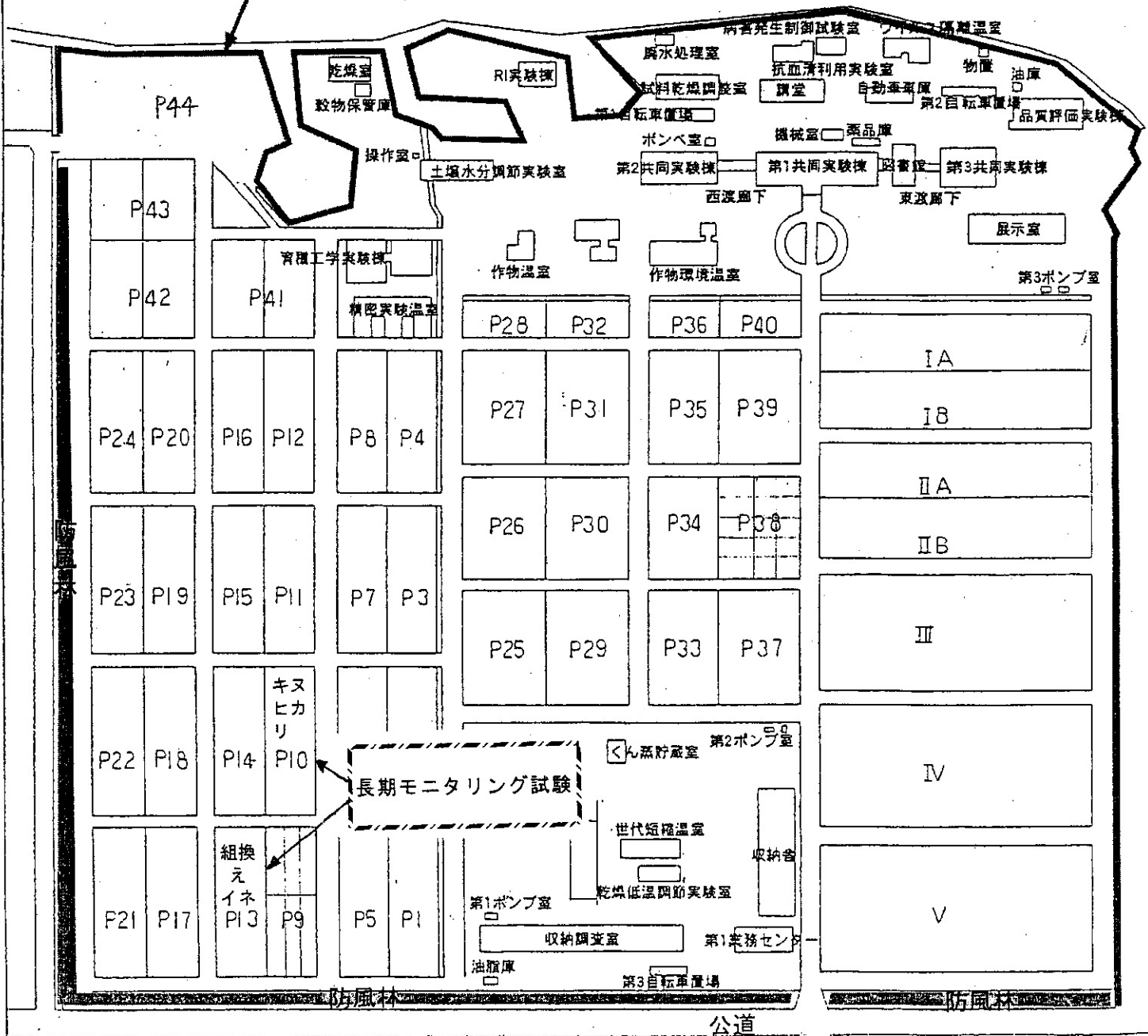
- 四国研究センター
- 試験圃場
- ▤ 一般農家水田

独立行政法人農業技術研究機構  
 近畿中国四国農業研究センター  
 四国研究センター 建物配置図

位置略図



フェンス (金網)



平成15年度 仙遊地区 夏作圃場試験 (平成15年9月24日現在)



研究棟

P44(05)  
青刈水稲  
青刈り済み

P43(10)  
青刈水稲  
青刈り済み

P42(15)  
青刈水稲  
青刈り済み

P24(10)  
大豆

P20(10)  
大豆

P23(10)  
ヤーコン

P19(10)  
ヤーコン  
現在はソバ

P22(10)  
大豆

P18(10)  
ニンジン他  
野菜各種  
耕起済み  
トマト  
養液栽培

P21(10)  
青刈ソルゴー  
耕起済み

P17(10)  
青刈ソルゴー  
耕起済み

P41(7)  
休閑

P16(10)  
青刈水稲  
青刈り済み

P15(10)  
青刈ソルゴー  
耕起済み

P14(10)  
大豆

休閑

P12(10)  
青刈水稲  
青刈り済み

P11(10)  
青刈ソルゴー  
耕起済み

休閑

P9(8)  
陸稲  
大豆

休閑

P8(10)  
休閑  
大豆

P7(10)  
青刈水稲  
青刈り済み

P6(10)  
大豆

P5(10)  
水稲  
ソルゴーに変更

休閑

P4(10)  
休閑  
大豆

P3(10)  
青刈水稲  
青刈り済み

P2(10)  
大豆

P1(10)  
大豆  
ハウス  
大豆

P28(5)  
草花

P27(10)  
青刈水稲

P26(10)  
青刈ソルゴー  
耕起済み

P25(10)  
水稲  
青刈り  
耕起済み

P32(5)  
水稲  
ヤーコンに変更

P31(10)  
青刈ソルゴー  
耕起済み

P30(10)  
青刈ソルゴー  
耕起済み

P29(10)  
水稲  
青刈り  
耕起済み

P36(5)  
レタス

P35(10)  
トマト  
ピーマン  
大豆

P34(10)  
青刈ソルゴー  
耕起済み

P33(10)  
(ハウス)  
シンビジウム  
レタス

P40(5)  
水稲  
野菜に変更

P39(10)  
大豆

P38(10)  
野菜他  
ヤーコン

P37(10)  
(ハウス)  
レタス

IA(20)  
大豆  
IB(20)  
大豆

IIA(20)  
青刈水稲  
耕起済み  
IIB(20)  
青刈水稲  
耕起済み

III(40)  
青刈ソルゴー  
耕起済み

IV(40)  
青刈ソルゴー  
耕起済み

V(45)  
水稲  
ここにだけが収穫予定

機械庫

ハウス

大型機械庫

業務科室

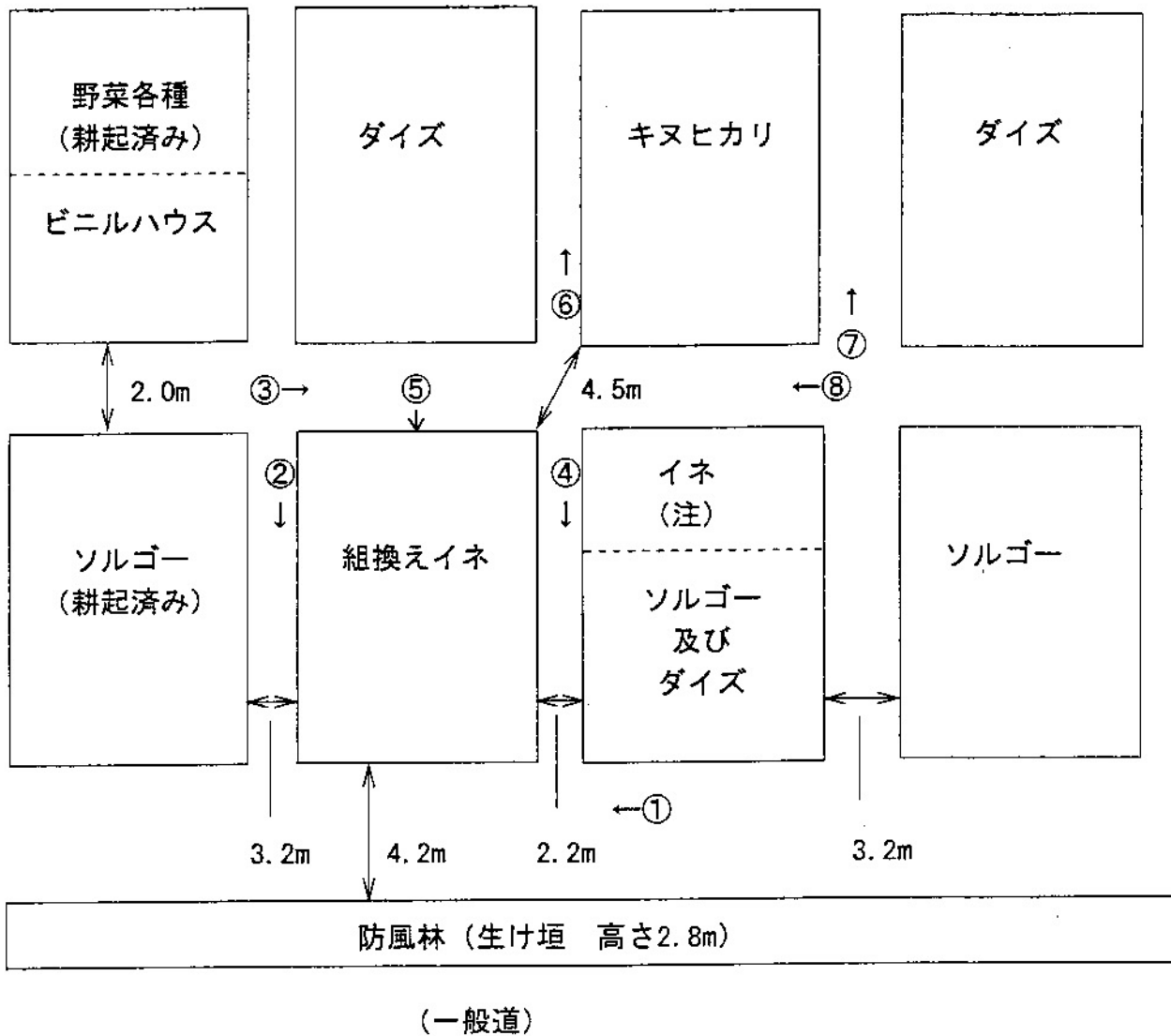
調査室

防風林

○近畿中国四国農業研究センター四国研究センター  
長期モニタリング試験圃場周辺 (9/24 現在)



圃場 1 枚の大きさは約54×18m



(注) このイネは縞葉枯病の発病調査を目的として栽培しており、調査後は全て処分。  
品種は陸農林 11 号、台中在来 1 号、キヌヒカリ、IR50、ササニシキ、越路早生。

平成 15 年 9 月 30 日

7/30 朝日

遺伝子組み換え稲  
試験栽培の中止  
農家ら申し入れ

中国四国農業研究センター  
四国研修センターで遺  
伝子組み換え稲が試験栽  
培されていることから、  
生活協同組合コープ自然

を隣れた田で一般のキヌ  
で栽培し、病気に強い品  
種の研究をしている。環  
境や病気についてのデー  
タ収集などが目的で、道

「自然派オーリーブ」の  
メンバーらは、同センタ  
ーウィルス病研究室の担  
当者に「飛散した花粉が  
一般の稲に混入すること

これに対し同センター  
側は「安全を確認しなが  
ら栽培しており、稲は焼  
却処分している」などと  
安全性を強調した。

派オーリーブの岡田ゆかり  
理事長や農家ら約人が同  
センターを訪れ、栽培中  
止を申し入れた。  
同センターでは、01年  
6月から遺伝子組み換え  
をしたキヌヒカリを10坪

ヒカリを育て、比較研  
究している。今年までの  
試験栽培で、来年は遺伝  
子組み換えをした稲を育  
てた田に普通のキヌヒカ  
リを植え、環境や稲への  
影響を調べるという。

「生  
態系が破壊される恐れが  
あり、食品として安全で  
はない」と中止を求め  
た。

（本紙記者の取材による）



2003年10月9日

独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構  
近畿中国四国農業研究センター四国センター  
四国農業研究官 駒村 研三 様

生活協同組合コープ自然派オリーブ  
理事長 岡田ゆかり

## 「遺伝子組み換えイネの栽培中止」の申し入れ

9月17日、貴センターの特産作物部ウイルス病研究室石川浩一様に遺伝子組み換えイネの実験栽培の有無を問い合わせたところ、2001年より栽培しているとの回答をいただきました。

これまで私たちコープ自然派オリーブは、遺伝子組み換え食品に反対してきました。それは遺伝子組み換え食品が、消費者から十分信頼されているとは言えないからです。マスコミのアンケート調査では約7割のみなさんが「不安を抱いている」と回答しています。この不安は国の安全審査が、国民の健康を配慮したものではないことを証明しています。多くの消費者は、これが6割の食料を輸入に依存している、私たちの弱みにつけ込んだ、メーカーや生産国のサイドに立った安全審査であることを知っているからです。また実質的同等という安全審査が、科学的根拠を持たない、まず導入ありきの理屈であることをよく知っています。

アメリカ・カナダでは、環境問題が急浮上しています。遺伝子組み換え作物による種子汚染やスーパー雑草や害虫の誕生により生態系が破壊されているなどの報告があります。

環境省は、カルタヘナ議定書に基づく国内法として、遺伝子組み換え作物の栽培は環境汚染をもたらす可能性があるとして、栽培する場合、環境大臣の事前承認を定めています。

また農水省も栽培者に対し、「試験的栽培にあっても、栽培に当っては、事前に周辺農家、住民の理解を十分に得ること、生産・流通上の混乱を招かないための交雑・混入防止等の措置を行なう」ことを指導しています。

今回の遺伝子組み換えイネの栽培は、環境省および農水省が指導しているにも関わらず、自らの決まりを自らが破るようなもので、決して許されるものではありません。コープ自然派オリーブは、遺伝子組み換えイネの栽培に断固反対するとともに次の申し入れを行なうことにします。

### 記

1. 遺伝子組み換えイネの実験栽培の即刻中止を求めます。
2. 周辺農家、住民の理解を十分得られるように説明会の開催を要望します。
3. 隣接の一般イネの廃棄処分を求めます。

以上

平成15年10月20日

コープ自然派オーリーブ  
岡田 ゆかり 理事長 殿

近畿中国四国農業研究センター  
四国研究センター  
四国農業研究官 駒村 研三

10月9日に行われた貴会からの組換えイネ栽培試験に関する「申し入れ」につき、口頭で述べた見解を下記の通り回答メモとして送付いたします。

1. 「遺伝子組換えイネの実験栽培の即刻中止を求めます。」について

当センターにおいて現在行っている、イネ縞葉枯病ウイルスの外被タンパク遺伝子を「キヌヒカリ」に導入した組換えイネの栽培試験は、土壌微生物、昆虫、雑草等、周りの生物環境への影響を長期モニタリングし、非組換えのイネ「キヌヒカリ」と比較検討する試験です。

本組換えイネは、農林水産省の「農林水産分野等における組換え体の利用のための指針」に基づき、すでに一般圃場栽培の環境安全性が確認された（平成6年2月農水省）ものであり、試験開始にあたっては周辺住民への事前説明会などを開催しながら遂行してきたものです。

本試験では、環境安全性の確認を得た組換え農作物であっても、長期間栽培することによる環境への影響が懸念されるという国民の声に応え、環境安全性の確認結果に対する国民の安心を確保することを目的に、13年～15年の3年間の反復栽培計画に基づき行っており、本年度については、イネを収穫し、計画に従って生育特性、生息生物相等の調査を実施します。

本組換えイネの栽培は、本年までの長期調査により得られた貴重な知見を総合的に分析し、データ等が不十分であるなど新たな要請があれば来年度も行うことも考えられますが、基本的には本年度で終了する予定です。

2. 「周辺農家、住民の理解を十分得られるように説明会の開催を求めます。」について

これまで、試験開始時に説明会を開催したところですが、来年度以降、組換え体を用いた同様の試験を行うこととなった場合には、周辺農家、住民等への説明会を開催することをお約束します。これまでの試験の実施内容・成果については、とりまとめ終了後に報告会を開催する計画です。

説明会、報告会の開催に当たってはプレスリリース、市広報、当センターのホームページ等により広く情報提供・情報公開に努めます。

3. 「隣接の一般イネの廃棄処分を求めます。」について

今年度分の組換えイネ栽培圃場と隣接する対照区のイネ（キヌヒカリ）の処理については、科学的な安全性に問題はないと確信していますが、皆さんの安心に対する懸念があることなどから、所外へは持ち出さないことといたします。

以上

なお、当センターでは、わが国の食糧供給や国土保全などを担う国内農業の維持発展を目指し、国内外の厳しい諸条件の克服を図り、また安全で安心な食料を生産・供給するための優れた素材開発や技術革新を図るべく、試験研究に取り組んでおります。

生産者、消費者の多様なニーズや意見も傾聴しながら、試験研究を一層推進していく所存です。

今後とも、皆様のご支援・ご理解をいただきたく、よろしく願いいたします。